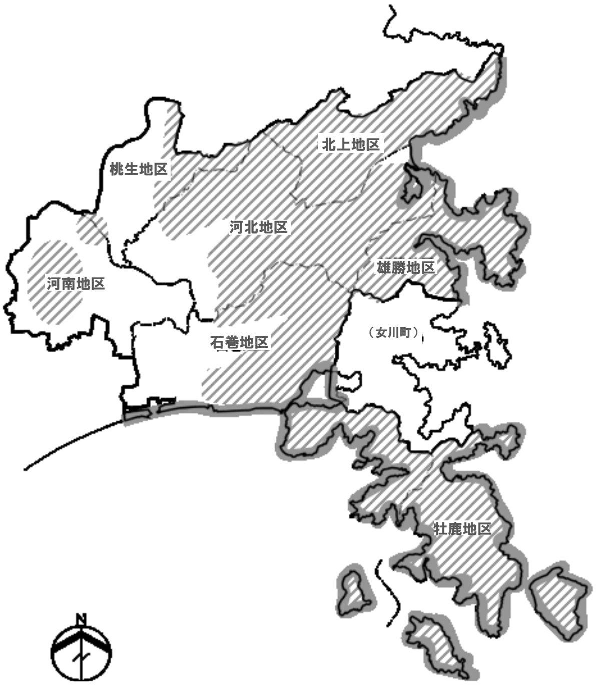
第１章　市の概要

平成１７年４月１日、石巻地域の１市６町は合併により、新たな石巻市として生まれ変わりました。本市は、東経１４１°、北緯３８°に位置し、東西約３５キロメートル、南北４０キロメートル、面積５５４．５５平方キロメートルの市域の中に、東部に北上山地と牡鹿半島の山々や丘陵が連なるとともに、太平洋に面してリアス式海岸が形成され、中央部や西部の平野部には田園地帯が広がっています。また、追波湾に注ぐ北上川と石巻湾に注ぐ旧北上川が流れ、流域には肥沃な穀倉地帯が形成されています。このように、本市は変化に富んだ地形を有しており、山、川、海という多様な生態系がそろっています。

《図１－１　市の花「ツツジ」（左図）
市の木「クロマツ」（右図）》

本市を象徴する花木として、「ツツジ」と「クロマツ」をそれぞれ平成１７年１０月１７日に制定しています。ツツジは、明るく咲いている姿が市民生活にうるおいを与えるとともに、暑さや寒さに強いことから伸びゆく本市を、クロマツは、大地にしっかりと根をおろし、太陽に向かって伸びていく姿から、本市の力強い発展を、それぞれ象徴しています。

気候は、東北地方の内陸部と比較すると寒暖の差が少なく、１年を通じて比較的温暖な海洋性の気候となっています。令和２年は活発な梅雨前線の影響で、東・西日本を中心に広い範囲で長期間にわたって大雨となり（令和２年７月豪雨）、７月の降水量が非常に多くなりました。



凡　例	
	海岸・島嶼地域
	山地・丘陵地域
	平野地域

人　口：140,068 人
世帯数：61,976 戸
(R3.3 月末/住民基本台帳)
面　積：554.55k ㎡
(令和 3 年国土交通省国土地理院
「市区町村別面積調べ」)

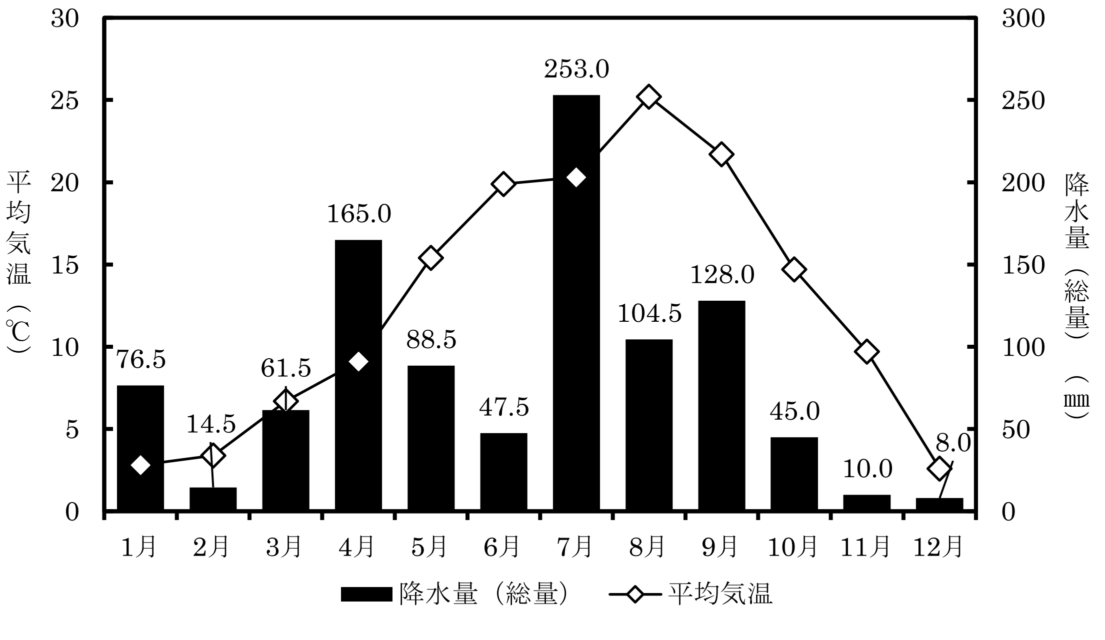
《図１－２　石巻市の地形と基本データ》

資料：国土交通省国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」地理院地図を基に環境課作成

産業面では、製造業、卸売業、小売業など多様な産業が営まれ、地元経済と密接に関わっており、中でも太平洋沿岸部では古くから漁業や水産加工業が盛んで、パルプ・紙製品製造や木材・木製品製造及び鉄鋼業等の工場が数多く立地しています。

農業は、ササニシキやひとめぼれを中心とした稲作が営まれているほか、トマト、きゅうり、いちご、小ねぎ、ほうれんそうなどの野菜や、菊、ガーベラ、鉢もの類などの花きに加え、肉用牛生産なども行われており、多彩な複合経営農業が展開されています。

また、仙台湾の北に位置する石巻港は、紙・パルプ、飼肥料関連、木材・合板関連を中心とする産業の輸入基地、生産基地として、産業活動を支える典型的な工業港であり、東日本大震災により甚大な被害を被りましたが、令和３年３月で復旧・復興工事は概ね完了しました。石巻港における令和２年の取扱貨物量は約３３７万トン、前年比で約５４万トン減少しており、コロナ禍における需要消失による落ち込みの影響が見られる品目もあります。（資料：石巻港港湾計画概要書・石巻港復興だより第３０号（宮城県））。また、本市の水産物の流通拠点である水産物地方卸売市場は平成２７年に全面供給開始され、令和２年の水揚数量は約１０万トンでした（資料：魚種別・魚市場別水揚高（宮城県））。



《図１－３　令和２年石巻市の月ごとの降水量と平均気温》

資料：気象庁公表資料を基に環境課作成

《表１－１　令和２年の石巻市の気候に関する主要データ》

年間平均気温	12.6℃
日最高平均気温	29.1℃
日最低平均気温	-0.8℃
年間降水量	1,002.0mm
日最大降水量	67.0mm

資料：気象庁公表資料を基に環境課作成